

各地の たより



四万十川で 竹のイカダに乗ろう

〈ふれあいセンター〉

四万十市立西土佐中学校では、五年前から、「四万十川で竹のイカダに乗ろう」をテーマにした総合学習に取り組んでいます。今年も、一年生二十三名を対象にふれあいセンター職員が指導にあたりました。六月二十四日は、学校で竹の



協力して伐採した竹の運搬

七月十五日は、学校でイカダを組み立てました。組み立てる前に、イカダに乗った時のケガ防止のために、木口や節をヤスリで削りましたが、想像以上に根気のいる作業で閉口気味の生徒も。次に、職員が実際に組んで見せながら、組み立ての要領を説明しました。いざ始めてみると、長いロープの扱いに苦労していましたが、予定どおり四艇のイカダが完成しました。



完成したイカダ乗りを楽しむ生徒

七月二十四日は、待ちに待ったイカダ乗り体験の日。学校の近くを流れる四万十川にイカダを浮かべ、四班に分かれて次々と試乗しました。始めは、竿のこぎ方やバランスの取り方に戸惑っていましたがすぐにコツを掴み、大歓声を上げながらイカダ乗りを楽しんでいました。そして、報道陣の取材には、「広々とした四万十川のイカダ乗りは楽しかった。学習を通して西土佐の自然や森林の大切さが分かった」と答えるなど、今回の一連の体験学習を通して、地域のシンボルである四万十川の豊かな水は、上流域にある森林の豊かさからきていることに気づいてもらえたようです。

郷土の森を知ろう

〈香川所〉

七月十四日、高松市立屋島小学校の五年生百十八人が郷土の森について学習しようとして森林教室が開かれました。屋島小学校では郷土について様々な学習をしており、そのなかで、屋島の森林について学ぼうと、香川森林管理事務所に森林教室の依頼がありました。森林ふ



郷土(屋島)の森林について学ぶ

れあい担当主幹から屋島が溶岩台地でできていることや、日本で最初に国立公園に指定されたことなど、屋島の成り立ちや歴史について、また、松食い虫の被害で多くのマツが枯れたことや、森林を守るためにいろいろな手入れが行われていることなど、現在の屋島の森林の様子や働きについて教わりました。生徒たちは予め屋島の森林を調べており、「屋島で一番長生きの木は?」「屋島に全部で木は何本あるの?」など、知りたいこと、疑問に思ったことを質問し、職員が答えに苦慮する場面もありました。その後、ペットボトルを使って小学校のグラウンドの土と屋島の森林から採取した土とで吸水力の比較実験を行うと、

親子で森の生き物作り

〈徳島署〉

その違いに驚いていました。郷土の森林について学ぶことで、森林についてもっと興味を持ち、大切にする心を持ってもらいたいと思います。

七月二十六日、徳島市立佐古児童館において、当署職員二名と同地区のボランティア二名の四名で佐古校区の子供達約一五〇名を対象とした「木の枝で作る森の仲間、カブトムシ・クワガタ・クマ」などの製作と「地球温暖化と森林」などについてパネル展示による森林の大切さのPR活動を行い



楽しくカブトムシ等を作成

ました。

同館では、児童館や地区の婦人会等が中心となって、工作教室を毎年開催しており、今年で七年目、「牛乳パックで作るブーメラン」や「たまごの殻で貼り絵」など色々な催しが行われています。今回は、木の枝等を使った工作の評判を聞いた同館の館長さんから依頼があり、当署として初めて参加しました。

参加した児童や父兄からは、「かわいい、かっこいい」、「木の枝で昆虫や動物が作れるのを初めて知り体験出来て良かった」との話もあり、沢山の笑顔と歓声がこだましたイベントとなりました。

工石山クリーン

ハイキングを実施

〈嶺北署〉

七月二十七日、嶺北署管内の工石山国有林九三林班内において、一般公募者十六名、「県民の森工石山を良くする会」三名、四国森林管理局十一名、嶺北署員六名の総勢三十六名の参加者の下クリーンハイキングを実施しました。

当日は気温も高く、前夜の雨



クリーンハイキングに参加した皆さん

のせいかな湿度も高い中ではありましたが、清掃作業と間伐作業の二班に分かれて作業を行いました。清掃作業では、杖塚を中心にゴミ拾いや下草刈りに汗を流し、間伐作業では、あらかじめ整備した区域の中で将来の「美しい森林」を思い描きながら選木を行い間伐をしました。最初は一人当たり二〜三本という予定でしたが参加者の要領もよく十本以上切っていた参加者もいました。

作業終了後は、頂上の展望台で昼食をとり、休憩の後、サイの河原まで下りて、加茂信三さんによる「オオダイガハラサンショウウオの生態について」分かりやすい説明を受け、その後杖塚まで下りて閉会式を行い解散しました。作業後の現

地はきれいになり、参加者一同さわやかな汗をながして充実した一日でした。

「連合の森」で 親子森林教室を開催

〈徳島署〉

徳島県美馬市木屋平の中尾山（標高約一、〇〇〇m）にある平成荘において、「連合徳島」主催の親子サマーキャンプが七月二十六日・二十七日の二日間開催され、当署は、二十六日の親子五五組一四九名の森林教室と木工教室を担当しました。

森林教室では、プロジェクトを使い「私たちを取り巻く森林について」をテーマに森林の



親子で楽しく「カレンダー時計」を作成

公益的機能や地球温暖化防止に森林が重要な役割を果たしていることを説明した後、刈り出しや除伐作業でいらなくなった木の枝や間伐材の板、拾ってきた木の実などを材料にして、「カレンダー時計」を親子共同で一台の作成に挑戦しました。天候は、親子に試練を与えるかのごとく、時にはわか雨が降り、やんだと思ったら夕立が容赦なく降り込むなど、思い出の詰まった一日目となりました。

翌日は、最高の青空となり親子で一本、鳥や動物の餌木で昆虫の集まるコナラを植樹し、鹿などの食害から苗木を守るためのプロテクター設置と記念の杭を立てました。「カレンダー時計」を見るたびに森林の大切さと親子の絆を再確認することのできるイベントとなりました。

森と海のコラボ

「足摺海洋館で親子木工教室」

〈ふれあいセンター〉

七月二十九日、土佐清水市竜串にある高知県立足摺海洋館で親子木工教室が開催されました。この教室は、同館の活用促進を図ることを目的として



親子でクワガタ等作成

十九日から八月三十日までの各土曜日に七回開催予定で、ふれあいセンターが初回の講師を依頼されました。当日は公募による親子五組十五人が参加、職員もボランティアの方々と一緒に木工クラフトの指導に当たりました。

最初に、ノコギリ、ナイフ、などの刃物の使い方を学んだ後、クワガタ、カブトムシ、クマの置物作りに挑戦しました。

子ども達は、ノコギリの扱いがうまくいかず両親に手伝ってもらった姿もチラホラ、それでも最後には立派な作品が出来上がりました。また、なかには海洋館に相応しい海の中をイメージした「壁掛け」を作った親子もいました。約二時間あまりの教室でし



竹のイカダ作りの様子

たが、普段「親子で何かをする」ことが少ない昨今、作品作りを通して親子がふれあう体験の助になったのではないかとと思っています。

森林環境教育の 更なる拡充を

― 教職員対象の講座を開催 ―

〈ふれあいセンター〉

ふれあいセンターでは、学校の要請を受けて出前講座形式で児童・生徒に森林環境教育を実施していますが、昨年からは指導者の裾野の拡大を図ることを目的として、教職員の方々に対象にした「森林の楽(学)育講座」を開催しています。今年の特典は、



木工クラフトの様子

【二日目】

- 森林環境教育の重要性
- 世界の森林と川(外部講師)
- 森林と地球温暖化防止・炭素現存量の測定
- 竹の話・竹のイカダづくり

【二日目】

- 炭の話・炭焼き体験
 - 木は万能選手・木工クラフト
- などについて実施しました。座学では、熱心にメモをとったり、講師に次々と質問する場面も見受けられ、先生方の森林や環境問題への関心の高さを窺うことができました。実習では、自分たちで組んだイカダの四万十川試乗体験や、木工クラフトの時間は、大いに楽しんでいる様子でした。実施後のアンケートでは、「学校で実践できるものがあつた」「疑問に思っていたことが理解できた」等の感想があり、

今後につながる講座となったようです。また、アンケートの結果は、次回の企画に反映させることとしています。

なお、①会場②実施日③参加者数は次のとおりです。

【高知県】

- ① 四万十市西土佐「四万十楽舎」② 七月二十九日と三十日
 - ③ 二日間で十二名参加
- 【愛媛県】
- ① 松野町立松野東小学校
 - ② 八月七日と八日
 - ③ 二日間で十六名参加

親子でオリジナル 作品に挑戦

〈徳島署〉

八月十七日、徳島市立上八万児童館において親子二十一組、総勢六十一名が県産スギと間伐や除伐で発生した木ぎれなどを再利用した「エコ・オリジナルカレンダー」作り挑戦しました。

まず、治山課長の挨拶の後、流域管理調整官が子供達を対象にパネルで木の一生と森林について森林教室を行い、その後、森林ふれあい係長が保護者に作業の注意や順序などを説明し、親子で楽しくオリジナルの作品を作りました。



親子で「エコ・オリジナルカレンダー」作り挑戦

児童館職員の方へは、事前の製作体験により、当日はスタッフの協力を頂いたこと等から、怪我也無く順調に作業が終了しました。

参加した子供達は作った作品を前に笑顔で写真撮影に臨み、保護者の方からは、「良い作品が出来ました。準備など大変ですが来年もお願いします。」との労いの言葉も頂きました。

木の動物・昆虫作り

〈徳島署〉

八月十九日に徳島市立内町児童館において児童四十三名がサクラ・ミズメの枝でカブトムシ等の昆虫とイヌ・クマの動物



カブトムシ作り等に挑戦

作り挑戦しました。

まず、館長さんより徳島署の紹介を頂き、次に職員が一人ずつ挨拶、最後に普段どの様な仕事をしているのかを簡単に説明し作業に取りかかりました。職員の紹介の時には全員の名前に山や木など森林に関する漢字が含まれている事に児童も保護者の方もびっくりしていました。

参加した子供達は初めての手作り工作に目を輝かせ、職員の周りに一斉に集まった子どもから、作り方などの質問が集中、汗をかきながら必死に対応する姿が見受けられました。が、予定時間の二時間ジャストで無事終了しました。

シリーズ 4 よろひつぞ四国土森林管理署

足摺亜熱帯自然植物園

所在地

高知県土佐清水市

足摺山一、二四四林班イ小班

足摺岬を中心とした足摺地区と大月町大堂を中心とした大堂地区の約一、一四〇haの国有林が、太陽と海と緑の自然に親しみながら休養の場として利用できるように「足



植物園の入口



園内の遊歩道

摺・大堂自然休養林」として指定されています。いずれも海岸部の森林でそのほとんどが亜熱帯性樹木を交えた常緑広葉樹です。
なかでも、観光地としても有名な足摺岬は、毎年二月に開催される「足摺つばき祭り」で知られているヤブツバキの花のトンネルをはじめ、夏から秋にかけてハマユウやハマカンゾウが秋から冬にはアシズリノジギクやツワブキなどが咲き乱れます。

足摺亜熱帯自然植物園も足

摺大堂自然休養林の施設の一つとして、この足摺岬にあります。足摺岬の自然に親しみながら、植物に対する知識と理解を深める教養の場として利用していただくことを目的として、昭和四七年から整備が行われ、植物の生育がほぼ安定した昭和四九年八月に開園しました。



多様な亜熱帯植物

開園当時は、足摺岬の国有林に自生している植物群を中心に自然環境の中に造ったもので、約五〇〇種類の植物が植栽されていましたが、植生遷移等により、平成一八年三月時点では、一九三種類の植物が確認されています。

園内に生育する植物のうち、保全上重要な植物としては、自生種ではキノクニスゲ、夕チバナの二種があげられ、足摺半島周辺から移植し、園地で保存される植物としてリュウビンタイ、カカツガユなど十一種があげられます。この他に、シヨウベンノキ、ハカマカズラ、ピロイドムラサキ、オタニワタリなどがあげられます。

これら希少な植物が生育するこの植物園は、足摺岬の植物を理解するうえで、大変意義があり、また、フカノキ、イジユ、クロツグなど沖縄や台湾の亜熱帯産植物も植栽されていて、日本の亜熱帯地域の主要な植物を見ることができま

今月の主なイベント等の予定

△十八日

森林管理局長会議 (林野庁)

△二十日

伊予之三名島古事の森づくり

〈愛媛署管内サル谷国有林〉

(指導普及課)

△二十四日

国有林野事業協力者感謝状贈呈式

(総務課)

△二十七日

森林についてはなしと木工クラフトづくり (高知中部署)

△二十八日

美しい森林づくりに関するシンポジウム (高知市文化プラザかるぼーと)

(計画課)





平成20年度「四国山の日賞」団体決定!!

四国森林管理局（中山尊裕局長）では、平成18年度から、四国4県との間で締結した「四国の森づくりに関する共同宣言」（平成16年11月）の趣旨に沿って、四国の森林等をフィールドとして**四国の森づくり活動**（森林整備、木材利用及び森林環境教育の推進）に積極的に取り組んでる団体を「**四国山の日賞**」として選定、表彰しています。

今年度も、4月から6月にかけて四国の森づくり活動に積極的に取り組んでいる団体を募集したところ、四国4県から**18団体の応募**があり、先日、林業関係者、環境教育者やマスコミ関係者等からなる「四国山の日賞選考委員会」において、厳正かつ公正な審査を行いました。

その結果、次のとおり**9団体**（森林整備分野：2団体、木材利用分野：2団体、森林環境教育分野：5団体）を今年度の**四国山の日賞**と決定しました。

なお、決定した団体の表彰は、11月1、2日、高知県香美市ほきがみねしんりんこうえん甫喜ヶ峰森林公園外で開催される「四国山の日inこうち」の会場（表彰は11月2日、ほきがみねしんりんこうえん甫喜ヶ峰森林公園）において行います。

森林整備分野

- ◇森の応援団・さんりん倶楽部（高知県）
- ◇ニッポン高度紙工業株式会社（高知県）

木材利用分野

- ◇有限会社岡松自動車钣金（高知県）
- ◇梶原町森林組合（高知県）

森林環境教育分野

- ◇東みよし町立絵堂えどう小学校（徳島県）
- ◇西井川林業クラブ（徳島県）
- ◇フォレストーズかがわ（香川県）
- ◇えひめ森の案内人会（愛媛県）
- ◇香美市立大柄かみ おおどち小学校（高知県）

ようこそ「森林(もり)の達人集」をホームページに掲載しました



指導普及課

1 趣 旨

四国森林管理局では、木の枝や葉、かすら等の自然の材料を用いた遊び、林内、木、溪流などといった森林をフィールドとした遊び、活動を得意とする名人達を「森林の達人」としてデータベース化し、多様化する森林環境教育への要請に弾力的かつ機動的に対応していくため、8月6日から、ようこそ「森林の達人集」の運用を開始しました。

2 内 容

- (1) ①体験活動、②調査研究活動、③林業技術、④物づくりの4分野で構成
- (2) 4分野の活動地を、①森林、②里山、③校庭や空き地、④教室・公民館 ⑤研究機関・工場とし、活動地に応じて開催できる102のプログラム例を掲載

3 利用方法

局ホームページのメニューから、ようこそ「森林の達人集」を選択してください。

詳細は別紙「森林の達人」に出会えるまでのシステムを参照してください。

4 「森林の達人」キャラクターの「こだまくん」と「このはさん」がホームページ上でご案内します。



わたしたちが案内します
よろしく